

音楽科学習指導案

熊野町立熊野第三小学校

教諭 中村 亜沙子

- 1 日 時 平成 26 年 6 月 25 日 (水) ~平成 26 年 7 月 8 日 (火)
- 2 学年・学級 5 年 1 組 男子 19 名 女子 18 名 計 37 名
- 3 題 材 曲想を感じ取って演奏しよう
- 4 題材について

○ 題材観

本題材は、小学校学習指導要領音楽（平成 20 年）の第 5 学年及び第 6 学年「B鑑賞」（1）イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。」「A表現」（2）ア「範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。」「イ「曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。」を受けて設定した。鑑賞活動を通して感じ取った音楽を形づくっている要素を基に、器楽活動において表現の工夫を行い、思いや意図をもって表現することをねらいとする。また、〔共通事項〕については、「旋律」「強弱」「音楽の縦と横の関係」を扱うものとする。

「ファランドール」は、「王の行進」と「馬のダンス」という二つの対照的な旋律で構成されている。二つの旋律は対位的・和声的に重なっており、旋律の重なり合う響きや面白さを感じ取りやすい教材である。また、曲想の変化と強弱とを関わらせて聴くことにより、曲全体のよさ・特徴などを感じ取ることができる。

「エーデルワイス」は、ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド・レの 7 音からなり、リコーダーで演奏することができる二重奏曲である。ゆったりとした 3 拍子の流れの中にある跳躍進行が旋律の特徴となっており、滑らかなイメージや二部の音の重なり的美しさを感じ取りやすい教材である。

「家路」は、ドヴォルザークが作曲した、交響曲第 9 番「新世界より」の第 2 楽章である。ドヴォルザークの死後に歌詞を付けて、『家路』『遠き山に日は落ちて』などの愛唱歌に編曲された。旋律は、緩やかな上行と下行が繰り返されており、強弱を工夫して演奏するのに適した教材である。また、本教材はリコーダー二重奏に編曲されており、音の重なり合うひびきの美しさを感じ取ることができる。

これらの教材は、「旋律」「強弱」「音楽の縦と横の関係」という三つの要素が感じ取りやすく、本題材で扱うのに適している。

○ 児童観

本学年の児童に、読譜に関する調査（テスト、アンケート）（平成 26 年 6 月 5 日実施）を行ったところ、ト音記号の階名が全て読めた児童は 67.5%おり、ほとんどの児童が階名を読めることが分かった。また、楽譜を見て気付いたことを答える問題では、強弱について答えた児童が最も多く、59.4%、続いて、旋律に関する気づきを回答した児童が 21.6%いた。しかし、その他の要素に対する気づきはどれも 20%以下に留まっており、無回答の児童も 16.2%いた。楽譜に対する意識調査では、97.2%の児童が楽譜を読むことは役に立つと感じ、全ての児童が楽譜をもっと読めるようになりたいと思っている一方、27%の児童は、楽譜を読むことは好きではないと感じていることが分かった。

表現の工夫については、これまでに、息の入れ方や音程に気を付けた歌い方・楽器の演奏の仕方の学習や、楽曲の雰囲気合うように強弱に気を付けて歌ったり演奏したりする学習を行っている。また、「翼をください」「広い世界へ」などの楽曲を全校合唱する場面では、強弱と曲想の変化を意識して歌うことを体験している。これらの経験から、81.0%の児童が、「演奏する時に自分なりに工夫して演奏することは楽しい」と感じている。しかし、同じ項目に否定的な回答をしている児童も 18.9%おり、また、「音楽の授業で、自分の思いや考えをもって歌ったり演奏したりしている。」の項目では、27.8%児童が、否定的な回答をしている。

○ 指導観

児童観に示したことを踏まえて、本題材では、楽譜を読んだり表現の工夫をしたりすることの楽しさを味わわせながら活動に取り組めるようにする必要があると考える。

指導に当たっては、常に楽譜を意識しながら音楽を形づくっている要素を感じ取れるようにする。

鑑賞の活動では、拡大楽譜を使って旋律のかけ合い・重ね合いなどを確かめながら聴く活動を行う。この活動を通して、楽曲の構造を理解させ、そこから生み出される曲の雰囲気や様子と音楽を形づくっている要素を関わらせながら聴く面白さを味わわせる。また、強弱が変化していることで、曲想がどのように変化しているのかを考えさせる活動を行う。その際も、拡大楽譜を用いることで、音楽を視覚化させ、強弱の効果を理解させる。

器楽活動では、二つの教材について、楽曲の分析を表現の工夫へとつなげる活動を、楽譜探検シートを用いて行う。楽譜探検シートに示す読譜の観点に沿って楽しみながら楽曲の分析を行い、楽曲の特徴を掴むことで、児童はより深く音楽を味わったり、分析を基に表現の工夫を考えたりすることにつながると考える。また、各自が分析や工夫を書き込んだ楽譜探検シートを基に、話し合いを行うことで、思いや意図の共有化を図り、表現の幅を広げ、活動に意欲的に取り組めるようにする。学習の終わりには、各グループが考えた工夫を基に演奏発表する場を設け、お互いの工夫を認め合うことで、本題材終了後も、探究する活動への意欲を高めたい。

5 題材の目標

○ 音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して「ファランドール」を聴くようにする。

○ 「エーデルワイス」「家路」の音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想にふさわしい器楽表現の工夫をする。

6 題材の評価規準

	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
学習活動における 具体的評価基準	① 音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して「ファランドール」を聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ② 「エーデルワイス」「家路」の曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもってリコーダーを演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	① 「エーデルワイス」「家路」の旋律、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。 ② 感じ取った楽曲の特徴を基に、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	① 「エーデルワイス」「家路」の曲想を生かした表現で演奏している。	① 旋律、強弱、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。

7 指導と評価の計画 (全6時間)

次	時間	ねらい	学習内容・学習活動	評価の観点	
				評価規準	評価方法
第一次	1	音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して「ファラントール」を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ○楽曲と出会う。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲を聴いて、思い浮かべた様子を話し合う。 ○楽曲の構造について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を見ながら旋律を口ずさむ。 ・二つの旋律の重なりに気を付けて聴く。 ・楽譜を見て確かめる。 ○強弱の効果に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・強弱の変化がもたらしている曲想の変化について話し合う。 ○楽曲全体の曲想を味わって聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲を通して聴き、気付いたことや感じ取ったことを鑑賞カードに記述する。 	<p>【関】① 音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して「ファラントール」を聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【鑑】① 旋律、強弱、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。</p>	行動観察 鑑賞カード 発言
第二次	2 3	「エーデルワイス」の曲想にふさわしい表現を工夫してリコーダーを演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> ○「エーデルワイス」をリコーダーで演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を見ながら階名唱する。 ・運指に気を付けてリコーダー奏をする。 ・楽曲から思い浮かべた様子を発表する。 ○「エーデルワイス」の楽曲の特徴を感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・読譜の観点に沿って楽譜を読み、気付いたことを発表する。 ○「エーデルワイス」の曲想にふさわしいリコーダーの表現を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きやまとまり、音の重なりと、強弱表現とを関連させながら表現を工夫する。 ○考えた工夫に気を付けて、「エーデルワイス」を演奏する。 	<p>【関】② 「エーデルワイス」の曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもってリコーダーを演奏する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【創】① 「エーデルワイス」の旋律、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。</p> <p>【創】② 感じ取った楽曲の特徴を基に、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p>【技】① 「エーデルワイス」の曲想を生かした表現で演奏している。</p>	行動観察 発言 楽譜探検シート 演奏

	4 (本時) 5 6	<p>「家路」の曲想にふさわしい表現を工夫してリコーダーを演奏する。</p>	<p>○「家路」をリコーダーで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を見ながら階名唱する。 ・運指に気を付けてリコーダー奏をする。 ・楽曲から思い浮かべた様子を発表する。 <p>○「家路」の楽曲の特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読譜の観点に沿って楽譜を読み、楽曲の特徴を見つける。 <p>○各自で「家路」の表現の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜探検シートに考えた表現の工夫を書く。 ・演奏して確かめる。 <p>○グループで「家路」の表現の工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きやまとまり、音の重なりと強弱表現とを関連させながら、表現を工夫する。 ・グループでの一押しを決める。 <p>○グループごとに、表現を工夫した「家路」の演奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏の前に工夫した点を紹介する。 ・各グループの発表を聴き、演奏効果のあったところについて発表する。 	<p>【関】② 「家路」の曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもってリコーダーを演奏する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【創】① 「家路」の旋律、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。</p> <p>【創】② 感じ取った楽曲の特徴を基に、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p>【技】① 「家路」の曲想を生かした表現で演奏している。</p>	<p>行動観察 楽譜探検シート 発言 演奏</p>
--	---------------------	--	---	--	---------------------------------------

8 本時の展開 (第二次 第4時)

(1) 本時の目標

「家路」の音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取ることができる。

(2) 準備物

児童：リコーダー、筆記用具、楽譜（家路）

教師：提示用資料（拡大楽譜）、楽譜探検シート

(3) 学習展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
1 楽曲に出会う。 ・視唱する。 ・リコーダーで主旋律、副旋律を演奏する。 ・楽曲から感じた様子を発表する。 2 本時のめあてを確認する。	○思い浮かんだ様子を自由に発表させ、「家路」の演奏に対する意欲を高める。 ○前時と同様に、楽譜探検シートを用い、主に強弱の工夫を行うことを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 楽ふから曲の特ちょうを見つけ、演奏の工夫を考えることができる。 </div>	
3 楽曲の特徴をつかむ。 ・楽譜探検シートを使って楽曲を分析し、分かったことを発表する。 ・演奏して確かめる。 4 表現の工夫を考える。 ・強弱表現を工夫して演奏する。 ・楽譜探検シートに書き込む。 5 本時のまとめをする。	○楽譜探検シートに示した読譜の観点に沿って、分析を行わせる。 ○最初は一人で分析する時間を確保し、楽譜にしっかりと向き合わせた後、全体で発表し合うようにする。 ○見付けた音楽を形づくっている要素の特徴と、感じたことを関わらせて発表させる。 ○演奏して確かめる時間を十分に確保する。 ○どのように工夫してよいか悩んでいる児童に対しては、繰り返されていた旋律が、途中から変わっている所に着目して曲の山場を見つけさせ、表現の工夫を考えるように助言する。 ○どの部分で、どのような工夫をしたかを発表させることで、曲の特徴を掴むことが様々な演奏の工夫につながることに気付かせると同時に、次時の活動への意欲をもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 曲の特ちょうをつかんだことで、曲想に合った様々な演奏の工夫を考えることができた。 </div>	【創】① 「家路」の旋律、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。 (楽譜探検シート、発言)

< 具体の評価規準にCと判断される状況への働きかけ >

- ・旋律線を引いたり、旋律が繰り返されている所を見付けたりするよう声をかけることで、旋律の特徴に気付かせるようにする。

< 具体の評価規準におけるAと判断される状況 >

- ・旋律の特徴や他のパートとの関わりについて、それらの働きが生み出す良さや面白さと結び付けて楽譜探検シートに書いたり発言したりしている。

< 具体の評価規準におけるBと判断される状況 >

- ・旋律の特徴と他のパートとの関わりの方について、楽譜から気付いたことを、楽譜探検シートに書いている。

楽ふ探検シート ~ひみつ編~

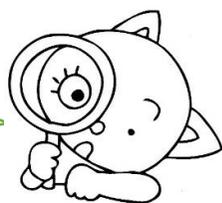
年 組	名前
-----	----

家路

ドボルザーク作曲

♩ = 52 ぐらい

楽ふ探検⑩のガイドを
参考に、曲のひみつを
見つけよう♪



楽ふ探検⑩のガイド		楽ふを見て気付くこと
①	曲名, 作詞・作曲者名	
②	ト音記号・ヘ音記号, 調	
③	拍子	
④	速さ (♩ =)	
⑤	くり返し記号 (曲の進み方)	
⑥	演奏形たい	
⑦	せんりつの特ちょう <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>同じ にている 全くちがう 最高音・最低音 曲の山 音ぷの長さ など</p> </div>	
⑧	他のパートとの関わり <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>追いかけている かけ合っている 重なっている・全くちがう</p> </div>	
⑨	強弱記号	
⑩	その他 (スラー・スタッカート など)	